

（1）道路ストックの長寿命化

＜ポイント＞

- ・道路橋の予防保全によるライフサイクルコストの縮減
- ・道路構造物の棚卸しによる将来的な維持修繕・更新費の算定
- ・技術開発や技術者の育成を通じたアセットマネジメントシステムの確立
- ・事業者等への啓発を行った上で、大型車両の違反通行データ等の活用、違反者の公表等による指導・取締りの実効性向上

＜現状と課題＞

- ・わが国の道路は高度経済成長期に集中的に整備されたため、今後、道路橋をはじめとした道路構造物の老朽化が急速に進行し、補修や更新の増加が想定される。
- ・現在は、道路橋の計画的な点検、診断、補修、更新を通じた予防保全によるライフサイクルコスト縮減を目指して、道路ストックの長寿命化の取り組みが始まっているが、多くの道路ストックを抱える市区町村においては、技術的、財政的な理由により、取り組みが遅れている。

＜今後の方向性＞

- ・長寿命化の取り組みが遅れている市区町村に対する研修、最新情報の提供等による技術的な支援と財政的な支援を継続的に行い、地域で持続可能なインフラ管理の取り組みを進めていくべきである。
- ・国・地方が管理する道路構造物の実態把握のための棚卸しを実施し、具体的には実態データを収集の上、将来の維持修繕・更新費の算定を行い、将来の負担を軽減するために計画に基づく維持修繕を行うこととし、構造物の点検、診断、補修等のサイクルを確実に進めていく。
- ・維持修繕に係る環境整備として、インフラ管理に必要な技術開発・研究の充実や、維持修繕に関わる技術者、担い手の育成・研修の取り組みを進めるとともに、インフラ管理を継続して実施する拠点の整備等を進め、持続可能なアセットマネジメントシステムの確立を図ることが必要である。
- ・トレーラ連結車等の大型車両の道路適正利用を促進する仕組みを構築し、事業者等（運行事業主、運転手等）への啓発を行った上で、これら車両の違反通行データ等の活用、関係機関との連携強化、違反者の公表等により、指導・取締りの実効性を向上させることが必要である。

建議中間とりまとめ（社会資本整備審議会道路分科会）

（２）効率的な維持管理の実施

＜ポイント＞

- ・ データ収集・分析による的確な維持管理レベルを設定
- ・ コスト縮減等の工夫と地域・利用者との協働による維持管理

＜現状と課題＞

- ・ 厳しい財政制約の下で、利用者へ適切なサービスを提供するため、道路の維持管理にあたっては、管理水準等を設定し、利用者ニーズの把握を行いながらコスト等を縮減する様々な取り組みが始まっている。

＜今後の方向性＞

- ・ 維持管理にあたっては、当該道路が果たすべき役割に応じたサービスレベルを確保する必要があり、気候、植生等の地域特性、路面の状況等の現況データを収集・分析し、これに基づく的確な維持管理レベルを設定し、利用者の期待に応えることが必要である。
- ・ また、維持工事の性能規定化の推進など、コスト縮減等の様々な工夫・取り組みを引き続き進めるとともに、道路情報の広域的な収集や道路管理者間の情報共有を強化し、既の実績がある沿道住民、利用者による道路の維持管理への参画、協同をより一層進めていくべきである。

道路分科会建議 中間とりまとめ 概要

I 道路政策の現状認識

1. 一定の量的ストックが形成、一定の政策効果
2. これまでの道路政策の課題
 - ① 増大する自動車交通への対応を優先した政策展開
 - ② 「使う」観点の欠如
 - ③ 整備状況やサービスレベルの地域的な偏在
 - ④ 他の主体や施策との連携に課題

II 今後の社会経済の展望

1. 本格的な人口減少、超高齢化社会、縮退する地域社会
2. 厳しい財政制約
3. 国際競争の激化と対アジア交流の重要性の増大
4. 国土の脆弱性の克服
5. 低炭素・循環型社会

III 今後の道路政策の検討にあたっての基本的な視点

〈転換の視点〉

1. 「クルマ」主役から「多様な利用者の共存」へ
2. 道路を「賢く使う」～利用状況やニーズの的確な反映を前提に～
3. 道路を「進化させる」
～道路の有する機能や価値の再評価・醸成・創出～
4. 国土の再編・強化に向け、
道路の「ネットワーク機能を重点的・効率的に強化する」
～大都市・ブロック中心都市の機能強化、
地域間で機能・役割を効率的に分担する連携生活圏の形成～
5. 強くしなやかな国土の形成に向け、「道路の役割を再認識する」
～大災害に備え、強い国土を守るための道路へ～

〈更に強化・充実していくべき視点〉

1. 総合的な交通体系の中での道路交通システムの最適化
2. 安全・安心でクリーンな移動の実現
3. 持続可能で効率的な政策運営

IV 具体的施策の提案

1. 道路の賢い使い方による多様な利用者の共存
2. 道路が有する新たな価値の創造
3. 交通結節機能の充実・高度化、公共交通利用の促進
4. 基幹ネットワークの戦略的な整備・活用
5. 防災も含めた国土の信頼性確保
6. 持続可能で的確な維持管理・更新
7. 低炭素型モビリティの普及促進に向けた対応、
道路空間のグリーン化

V 施策の進め方についての提案

1. 多様な利用を促進する新たな枠組みの検討
2. 利用者との協働による道路の総合的なマネジメントの導入
3. 早期の事業効果発現のための環境整備と評価の充実
4. 技術開発・活用による品質確保と道路の進化
5. 持続可能で多様な財源制度